

<白金標準、4600円～5000円のレンジ相場へ移行・・・>



(出所：オアシス)

LME 市場で、銅価格が生産低下に伴い中国の 13 社の精錬施設で生産調整を行うなど 9000 ドルを超えて、ニッケルやアルミなど非鉄金属の価格も上昇を示している。特に PGM（プラチナ・グループ・メタル）は、NY コメックスのプラチナ先物オプションで 3 月 26 日で 4.3 トンのショートポジションが 4 月 2 日にはロングポジションへ移行するなど、ショートカバーが見られ、NY 白金を押し上げる要因となっている。特に NY 金が 2300 ドルを超えるが、NY 白金は 950 ドルで推移するなど、出遅れ感が強かった価格だけに週末には 1020.5 ドルまで上昇を強めている。また白金標準先物は今年 1 月の高値を更新すると昨年 5 月の高値 4740 円を超え、週末には 2015 年 6 月限の高値 4956 円を超えて 4957 円まで上昇するなど約 9 年ぶりの高値を試している。そのため 3 月までは 4200 円～4500 円のレンジ相場を続けてきたが、9 年ぶりに 4900 円を達成するなど 2014 年の 5000 円相場の時代へ価値の見直しが動き出した可能性もあり、上昇に対する調整が起こっても 4500 円を下回る可能性は低くなったと見られることから 4600 円～5000 円のレンジへ移行したと考えた対応が良いと思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が上昇し、**シグナル** も上昇している。RCI は**短期**と**長期**が 80%以上で横ばいを続けるなど、強気を維持している。ただ **10 日移動平均線**と日足の乖離が拡大しており、目先の調整安に注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 4 月 15 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 79,200 円(2024 年 4 月 15 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>